

2023年3月期 決算説明会

ウシオ電機株式会社
2023年5月11日

<免責事項>本資料で記述されている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想です。収いまして、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性のあることをご承知おき下さい。

*本資料の記載は、切替による億円単位で表記しております。
Copyright © 2023 Ushio Inc. All Rights Reserved

未来は光でおもしろくなる

USHIO

ウシオ電機、経営統括本部長の朝日です。

昨日ウェブサイトにて開示しました決算資料にもとづき、2023年3月期 第4四半期
決算の内容を
ご説明させていただきます。

それでは、スライド2ページをご覧ください。

1. 2022年度 通期業績（実績）は **増収増益**
2. 次期（2023年度） 通期業績予想は **増収減益**
3. 次期（2023年度） セグメント区分を変更

本日、主に記載の3つについて説明致します。

2022年度 通期の業績は、前年同期比で増収増益。
次期2023年度の通期業績予想は、増収減益を計画しています。

また、次期よりセグメント区分を大幅に変更いたします。

詳しくは後程ご説明致します。
スライド4ページをご覧ください。

- I. 2022年度 業績概要
- II. 2023年度 通期業績予想
- III. 参考資料

売上高 通期実績 1,750億円	前年同期比：262億円増 (+17.6%) 円安による増収効果 需要増による増収（光学装置_UV装置） 新型コロナ影響からの回復（映像装置_一般映像）
営業利益 通期実績 158億円	前年同期比：27億円増 (+21.4%) 増収による増益（為替影響含む） 構造改革等による固定費抑制効果
親会社株主に帰属する 当期純利益 通期実績 136億円	前年同期比：10億円増 (+8.7%) 【営業外収支】 為替差損益 19億円（2021年度：3億円） 【特別利益】 固定資産売却益 2億円（2021年度：11億円）

Copyright © 2022 Usbio Inc. All Rights Reserved 4

こちらが業績サマリーです。

売上高は、17.6%増収の1,750億円。
 増収は、主に、為替が円安に推移したこと、光学装置・映像装置が貢献しました。

営業利益は、21.4%増益の158億円。
 増収による増益に加え、構造改革等による固定費抑制効果によるものです。

なお、為替影響ですが、USドルで前年同期比23円 円安となったことから、売上高で約180億円、営業利益で約20億円の押し上げ効果がありました。

当期純利益は、8.7%増益の136億円となりました。

続いて、営業利益の増減内容を、ステップチャートでご説明致しますので、スライド6ページをご覧ください。

売上高・損益

USHIO

(億円)	2021年度 実績	2022年度 実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	1,488	1,750	+262	+17.6%
営業利益	130	158	+27	+21.4%
営業利益率	8.8%	9.1%	+0.3P	-
経常利益	151	201	+49	+32.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	126	136	+10	+8.7%
EPS (円)	104.54	115.69	+11.15	+10.7%
為替レート (円)	USD	112	+23	-
	EUR	131	+10	-

Copyright © 2022 Usio Inc. All Rights Reserved 5

前年同期比 営業利益増減分析

単位：億円



注：「光源（売上増減影響等）」～「その他販管費等」は、「為替影響」を除いた金額

営業利益27億円増益の主な内訳です。

為替の円安効果で23億円の増益。

事業では、UVランプの減収や第2四半期に計上した棚卸評価損の影響がありましたが、露光装置の販売が増加したことで30億円の増益、一方、人財や研究開発への追加投資を含む販管費の増加が25億円でした。

続いて、セグメント別の業績をご説明致します。
スライド7ページをご覧ください。

セグメント別 売上高、営業利益



Copyright © 2023 Ushio Inc. All Rights Reserved 7

売上高は、すべてのセグメントで増収となりましたが、営業利益では、映像装置が減益となりました。

続いて、各セグメントの内容についてスライド 8 ページでご説明致します。

共通

半導体等の部材不足による影響は、一部事業で継続も緩和傾向
部材コスト上昇、エネルギー価格及び物流費高騰の影響は、一部事業で継続

エレクトロニクス
分野

半導体は中長期では成長も足元は稼働調整継続 液晶は需要一巡後は横ばいで推移

- FPD市場は、液晶の果ごもり需要一巡及び在庫調整により稼働低下後、横ばいで推移
- 半導体市場は、IoTや5G等の進展で中長期の成長を見込むも、足元は最終需要減速により稼働調整が継続
- 最先端ICパッケージ市場は、IoT等の進展でデータセンター需要増の傾向継続も、足元は投資先延ばしの傾向
高速化・低消費電力化等のニーズに対し技術革新の必要性もあり需要は堅調

ビジュアル
イメージング
分野

各国の経済活動再開により市場は概ね回復 部材不足影響とコスト上昇は緩和傾向

- シネマ市場は、映画館の稼働が回復 ただし設備投資の本回復は2023年度以降を見込む
中国市場はゼロコロナからウィズコロナへの政策転換により回復へ
- 一般映像市場は、イベント等の規制解除や再開により投資が回復
- OA機器市場は、セットメーカーでの部材不足による影響緩和も、景気減速により在庫調整

まず、最新の事業環境についてご説明致します。

直前第3四半期からの主な変更点は、エレクトロニクス分野において、全般的に市況の不透明感が出ている点です。最先端ICパッケージ基板市場は、引き続き需要増を見込んでいますが、足元は投資先延ばしの傾向があります。半導体・FPDの市況悪化も底打ちした感はありますが、しばらくは横ばいの市況が続くと想定されます。

続いて、セグメント別の状況についてご説明致します。
スライド9ページをご覧ください。

(億円)	2021年度 実績	2022年度 実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	578	618	+40	+6.9%
放電ランプ	383	387	+4	+1.1%
ハロゲンランプ	104	129	+24	+23.8%
固体光源	90	100	+10	+11.9%
営業利益	82	90	+7	+8.8%
営業利益率	14.3%	14.6%	+0.3P	-

放電ランプ 売上高増減の主な内訳 (前年同期比)

- ・UVランプ (▲7億円、▲6%)
液晶パネル向けで販売が減少
- ・シネマ用ランプ (+17億円、+24%)
新型コロナ影響から映画館の稼働が回復し販売が増加 及び 為替により増収
- ・データプロジェクター用ランプ (+6億円、+17%)
イベント回復によるハイエンド向け販売が増加 及び 為替により増収
- ・光学機器用ランプ (+2億円、+3%)
液晶パネル向けで販売が減少も 為替により増収
- ・その他 (▲14億円、▲35%)
固体光源化の影響によりナトリウムランプの販売が減少

ハロゲンランプ 売上高増減の主な内訳 (前年同期比)

- ・OA用ランプ (+14億円、+33%)
セットメーカーの部材不足影響が緩和し、販売が増加
- ・その他 (+6億円、+15%)
半導体需要増に伴い、主に半導体向け熱処理用ランプの販売が増加

固体光源 売上高増減の主な内訳 (前年同期比)

- ・固体光源 (+10億円、+12%)
エンタメ、センシング関連需要が回復し販売が増加 及び 為替により増収

Copyright © 2022 Usbio Inc. All Rights Reserved 9

光源セグメントは増収増益となりました。

売上高は、6.9%増収の618億円。営業利益は、8.8%増益の90億円となりました。

液晶パネル関連の光源が、巣ごもり需要一巡により販売減少。また、固体光源化の影響によるナトリウムランプの販売減少及び棚卸評価損計上などの減収減益要因がありました。

一方で、シネマ向けなどのプロジェクター関連及びOA用途など光源で、コロナからの市場回復により販売が増加したことで、光源全体では、増収増益となりました。

続いて、装置事業についてスライド10ページでご説明致します。

光学装置

(億円)	2021年度 実績	2022年度 実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	483	577	+94	+19.4%
営業利益	46	71	+25	+55.0%
営業利益率	9.5%	12.4%	+2.8P	-

売上高増減の主な内訳（前年同期比）

- ・UV装置（+96億円、+33%）
最先端ICパッケージ基板向け投影露光装置及びダイレクトイメージング露光装置の販売が増加
- ・キュア装置（▲11億円、▲22%）
液晶パネル需要一巡で設備投資が縮小し、関連装置の販売が減少
- ・その他（+8億円、+6%）
EUVは光源本体の販売が減少も、メンテナンスは増加

映像装置

(億円)	2021年度 実績	2022年度 実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	391	513	+121	+31.0%
営業利益	▲0	▲6	▲5	-
営業利益率	▲0.1%	▲1.3%	▲1.1P	-

売上高増減の主な内訳（前年同期比）

- ・シネマ（+37億円、+22%）
部材不足でDCPの販売は減少も、為替により増収
- ・一般映像（+77億円、+39%）
北米市場を中心にイベント等の回復により関連装置の販売が増加

Copyright © 2022 Usio Inc. All Rights Reserved 10

光学装置は、売上高で19.4%増収の577億円。営業利益は55%増益の71億円となりました。引き続き、半導体パッケージ需要は拡大傾向にあり、各露光装置販売が大幅に増加。

また、EUVマスク検査用光源については、光源本体の販売は調整局面にあり減少も、稼働中の光源メンテナンスは順調に推移し売上が増加しました。

光学装置全体で大幅な増収増益となりました。

なお、有望製品の状況はスライド11に記載していますので、後程、ご確認ください。

映像装置ですが、売上高は31%増収も、営業利益は部材コストの高騰などにより、5億円減益の6億円の赤字となりました。シネマは、年間通してキーパーツの調達不足影響が続き、デジタルシネマプロジェクターの販売が減少。

一方で、一般映像はコロナ後、イベント等のエンターテインメント関連投資が堅調に推移し、販売は増加しました。

続いて、スライド12ページをご覧ください。

項目	最新の状況	売上高推移												
最先端IC パッケージ基板向け 投影露光装置	<ul style="list-style-type: none"> 最先端IC/パッケージ基板市場の成長継続により受注・引き合いは堅調も、足元は投資先延ばしの傾向あり 生産能力を段階的に増強 2022年度下期:1.3倍以上 → 2023年度以降:更に2倍以上へ 次世代露光機へ開発投資継続 (高生産性×微細化) 	<table border="1"> <caption>売上高推移 (推定)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>売上高</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FY18</td> <td>低</td> </tr> <tr> <td>FY19</td> <td>中</td> </tr> <tr> <td>FY20</td> <td>中</td> </tr> <tr> <td>FY21</td> <td>中</td> </tr> <tr> <td>FY22</td> <td>高</td> </tr> </tbody> </table>	年度	売上高	FY18	低	FY19	中	FY20	中	FY21	中	FY22	高
年度	売上高													
FY18	低													
FY19	中													
FY20	中													
FY21	中													
FY22	高													
ダイレクト イメージング 露光装置	<ul style="list-style-type: none"> IoT、5G等の進展に伴い、パッケージ・プリント基板市場成長継続 高解像力モデル(2µmL/S)販売開始、2023年度以降、業績貢献 ターゲット:最先端IC/パッケージ (Fan-out)、有機パッケージ基板市場等 	<table border="1"> <caption>売上高推移 (推定)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>売上高</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FY18</td> <td>中</td> </tr> <tr> <td>FY19</td> <td>中</td> </tr> <tr> <td>FY20</td> <td>中</td> </tr> <tr> <td>FY21</td> <td>高</td> </tr> <tr> <td>FY22</td> <td>高</td> </tr> </tbody> </table>	年度	売上高	FY18	中	FY19	中	FY20	中	FY21	高	FY22	高
年度	売上高													
FY18	中													
FY19	中													
FY20	中													
FY21	高													
FY22	高													
EUVリソグラフィ マスク検査用 EUV光源	<ul style="list-style-type: none"> EUVマスク検査市場は着実に成長も、2023年度も調整局面が継続 高輝度APMI*の本格採用は2025年度以降 保守メンテナンスは高稼働で推移 	<table border="1"> <caption>売上高推移 (推定)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>売上高</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FY18</td> <td>低</td> </tr> <tr> <td>FY19</td> <td>低</td> </tr> <tr> <td>FY20</td> <td>中</td> </tr> <tr> <td>FY21</td> <td>高</td> </tr> <tr> <td>FY22</td> <td>高</td> </tr> </tbody> </table>	年度	売上高	FY18	低	FY19	低	FY20	中	FY21	高	FY22	高
年度	売上高													
FY18	低													
FY19	低													
FY20	中													
FY21	高													
FY22	高													

*APMI: Actinic Patterned Mask Defect Inspection (EUV光を使ったマスク検査装置)

2022年度 通期公表値差異

USHIO

半導体市況の悪化や部材不足により期初計画は未達も、前回修正公表値に対して、第4四半期の光源の生産調整影響が軽微であったことにより想定を上回り着地

(億円)	2022年度 実績	前回 2023.2.3			期初計画 2022.5.11		
		修正公表値	差異	達成率	公表値	差異	達成率
売上高	1,750	1,700	+50	103.0%	1,700	+50	103.0%
営業利益	158	150	+8	105.7%	170	▲11	93.3%
営業利益率	9.1%	8.8%	+0.2P	-	10.0%	▲0.9P	-
経常利益	201	195	+6	103.3%	185	+16	108.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	136	130	+6	105.4%	140	▲3	97.9%
EPS (円)	115.69	109.78	+5.91	105.4%	117.79	▲2.10	98.2%
ROE	5.7%	5.5%	+0.2P	-	5.9%	▲0.2P	-
年間配当 (円)	50	50	-	-	50	-	-
為替レート (円)	USD	135	+2	-	120	+15	-
	EUR	141	139	+2	-	130	+11

Copyright © 2023 Ushio Inc. All Rights Reserved 12

期初計画に対しては、想定以上の半導体や液晶の市況悪化や映像装置における部材不足の影響があり未達となりましたが、一方で、第3四半期に見直した業績予想に対しては、光源で想定していた生産調整等による影響が軽微で済み、想定を上回り着地することができました。

次ページでセグメントごとの差異をご説明致します。

スライド13ページをご覧ください。

2022年度 通期公表値差異 セグメント別

	(億円)	2022年度 実績	前回 2023.2.3			期初計画 2022.5.11		
			修正公表値	差異	達成率	公表値	差異	達成率
光源	売上高	618	590	+28	104.8%	630	▲11	98.1%
	営業利益	90	77	+13	117.2%	98	▲7	92.1%
	営業利益率	14.6%	13.1%	+1.5P	-	15.6%	▲1.0P	-
光学装置	売上高	577	560	+17	103.2%	510	+67	113.3%
	営業利益	71	80	▲8	89.5%	57	+14	125.6%
	営業利益率	12.4%	14.3%	▲1.9P	-	11.2%	+1.2P	-
映像装置	売上高	513	510	+3	100.6%	520	▲6	98.7%
	営業利益	▲6	▲9	+2	-	13	▲19	-
	営業利益率	▲1.3%	▲1.8%	+0.5P	-	2.5%	▲3.8P	-
その他	売上高	40	40	+0	102.2%	40	+0	102.2%
	営業利益	1	2	▲0	95.9%	2	▲0	95.9%
	営業利益率	4.7%	5.0%	▲0.3P	-	5.0%	▲0.3P	-
連結合計	売上高	1,750	1,700	+50	103.0%	1,700	+50	103.0%
	営業利益	158	150	+8	105.7%	170	▲11	93.3%
	営業利益率	9.1%	8.8%	+0.2P	-	10.0%	▲0.9P	-

Copyright © 2023 Ushio Inc. All Rights Reserved 13

各セグメントの期初計画及び第3四半期の見直し後の修正公表値に対する結果はご覧の通りです。

光源については、見直し後の修正公表値に対し想定を上回り着地しました。これは、半導体や液晶等の急速な市況悪化による生産調整を見込んでいましたが、比較的軽微な生産調整で済んだことから、想定より上振れました。

一方で、光学装置は、一部在庫の評価損及び製品ミックスによる利益への影響により、第4四半期が想定を下回りました。

続いて、次期2023年度の業績予想についてご説明致します。スライド15をご覧ください。

- I. 2022年度 業績概要
- II. 2023年度 通期業績予想
- III. 参考資料

2023年度 通期業績予想

映像機器関連の部材問題が緩和傾向により販売が増加し増収も、半導体市場を中心に不透明な景況感が継続
中計の達成及び将来の事業拡大に向けた戦略投資を拡大 配当は1株あたり50円/年を維持

(億円)	2022年度 実績	2023年度 予想	前年同期差異	
			増減	(%)
売上高	1,750	1,880	+129	+7.4%
営業利益*1	158	125	▲33	▲21.2%
営業利益率*1	9.1%	6.6%	▲2.4P	-
EBITDA*2	236	210	▲26	▲11.2%
EBITDAマージン	13.5%	11.2%	▲2.3P	-
経常利益	201	140	▲61	▲30.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	136	100	▲36	▲27.0%
EPS (円)	115.69	90.58	▲25.11	▲21.7%
ROE*1	5.7%	4.3%	▲1.4P	-
年間配当 (円)	50	50	-	-
為替レート(円)	USD	135	▲0	-
	EUR	141	+4	-

為替感応度：1円変動による影響額（通期）

	売上高	営業利益
対USD	約12.0億円	約1.3億円

*1 2023年度の営業利益、営業利益率及びROEの
目標値は、新株の発行人債部を除いて算出

*2 EBITDA=営業利益+減価償却費及びのれん償却費

Copyright © 2023 Usio Inc. All Rights Reserved 15

まず、本日後程、ご説明する新中期経営計画のスタートに合わせて、主要KPIをEBITDAとROEとしていきます。詳しくは、中計パートで説明致します。

さて、2023年度の通期業績予想ですが、増収減益を計画しています。

映像機器関連の部材問題は緩和傾向で販売が増加していく一方で、半導体市場を中心に不透明な景況感が続くと考えています。

そのような状況下ではありますが、新中計の達成とその先の将来に向けて、研究開発投資と人財投資などの戦略投資を拡大します。

なお、次期の為替前提は、通期でUSドル135円、ユーロで145円としています。

また、年間配当は、1株あたり50円を維持する予定です。

続いて、各セグメント別にご説明致します。
スライド16ページをご覧ください。

セグメント区分変更

第2次中期経営計画（FY2023～2025）より「市場軸」に基づく事業運営へと移行

旧事業セグメント		新事業セグメント		参考：旧事業セグメントとの関連性				
報告セグメント	サブセグメント	報告セグメント	サブセグメント	サブセグメント	報告セグメント			
光源事業	ハロゲンランプ	Industrial Process	●OA	●ハロゲンランプ：OA、その他 ●放電ランプ：UVランプ、光学機器	光源事業			
			●照明					
			●その他					
	放電ランプ		●UVランプ			●UV装置 ●キュア装置 ●その他（EUV他）	光学装置	
			●映画館					
			●データプロジェクター					その他
			●光学機器					
			●その他					
			●固体光源					
			●UV装置					
●キュア装置								
光学装置事業	●その他	Visual Imaging	●ハロゲンランプ：照明 ●放電ランプ：映画館、データプロジェクター	光源事業				
	●シネマ		●シネマ ●一般映像 ●照明装置他		映像装置			
	●一般映像							
映像装置事業	●照明装置他	Life Science	●放電ランプ：光学機器	光源事業				
	●産業機械その他		●その他（メディカル他）		光学装置			
その他	●産業機械その他	Photonics Solution	●固体光源	光源事業				
			●その他		光学装置			

Copyright © 2023 Ushio Inc. All Rights Reserved 16

セグメント別をご説明する前に、当第2次中期経営計画より、報告セグメントを従来の製品軸から市場軸へと変更いたします。

詳しいセグメント変更に至った経緯や変更に伴う方向性は、この後の中計パートにてご説明させていただきますが、旧セグメントとの関連性をこのページで示しています。

この変更を前提に、次ページよりご説明させていただきます。

スライド17をご覧ください。

セグメント別 通期業績予想

USHIO

IP：半導体市場の不透明感が継続及び開発投資拡大で減収減益 VI：部材問題が緩和傾向で増収増益

	売上高				営業利益			
	2022年度 実績 (参考値*1)	2023年度 予想*2	前年同期比		2022年度 実績 (参考値*1)	2023年度 予想*2	前年同期比	
(億円)			増減	(%)			増減	(%)
Industrial Process	881	860	▲21	▲2.4%	172 (19.6%)	110 (12.8%)	▲62 (▲6.8P)	▲36.4%
Visual Imaging	677	835	+157	+23.2%	30 (4.5%)	40 (4.8%)	+9 (+0.3P)	+32.2%
Life Science	46	45	▲1	▲3.3%	▲49 (▲106.0%)	▲20 (▲44.4%)	+29 (+61.6P)	-
Photonics Solution	101	105	+3	+3.7%	▲2 (▲2.9%)	▲10 (▲9.5%)	▲7 (▲6.6P)	-
その他	43	35	▲8	▲19.4%	7 (17.7%)	5 (14.3%)	▲2 (▲3.4P)	▲34.8%
連結合計	1,750	1,880	+129	+7.4%	158 (9.1%)	125 (6.6%)	▲33 (▲2.4P)	▲21.2%

*1 各セグメントの2022年度の値は比較を目的に当社が作成した参考値

*2 2023年度の営業利益は、新機種のりん價部を除いて算出

Copyright © 2023 Usio Inc. All Rights Reserved 17

各新セグメントの次期の計画は、ご覧の通りです。

Industrial Processでは、半導体及びフラットパネルなど全般的に市況環境は不透明感が続き、顕著な市況環境の改善は見込めない状況です。

一方で、今後の需要拡大期に向けた戦略投資を拡大していくことから、減収減益を見込んでいます。

Visual Imagingは、シネマプロジェクターなどで生じていたキーパーツ不足が徐々に緩和し、下期以降販売が拡大する見込みから、増収増益を見込んでいます。

詳しい各セグメントの見通しについては、スライド18に記載しています。ポイントのみご説明致します。

スライド18をご覧ください。

	事業環境前提	事業の見通し
Industrial Process	<p>全般的に不透明な景況感継続、半導体市場は下期以降の緩やかな回復を見込む</p> <ul style="list-style-type: none"> 半導体市場は最終需要減速で稼働調整が継続 回復は下期以降 最先端ICパッケージ基板市場は、中長期トレンド変わらず需要旺盛も、足元は投資計画後ろ倒しの傾向あり FPD市場は、巣ごもり需要一巡後に稼働低下し、横ばいで推移 	<ul style="list-style-type: none"> 投影及びDLP露光装置は一部投資計画後ろ倒しで販売は微増 EUVは、TCO課題継続で、メンテナンスのみ販売を見込む LIVランプは、稼働調整継続により前期比で販売が減少 露光装置及びEUVで将来を見据えた開発及びサポート体制強化に対する投資拡大
Visual Imaging	<p>シネマ市場は回復し、置き換え需要が本格化 一般映像市場は堅調</p> <ul style="list-style-type: none"> シネマ市場は、中国市場が稼働回復 DCPの置き換え需要が本格化 一般映像市場は、イベントやテーマパークなどの設備投資が堅調 ハイエンドプロジェクターの部材不足は緩和傾向 	<ul style="list-style-type: none"> DCPは部材不足緩和と置き換え需要本格化で販売が増加 一般映像関連機器は、ハイエンド需要が堅調で販売が増加 シネマ用ランプは、中国市場回復も固体光源化などの影響で販売は微増 データプロジェクター用ランプは、需要減と固体光源化で販売が減少
Life Science	<ul style="list-style-type: none"> 医療業界で光を使った機器需要が緩やかに伸長 	<ul style="list-style-type: none"> 紫外線治療機器は新製品投入でシェアUPにより販売が増加 医療業界向け光源は需要増加により販売が増加 固体光源化の影響でナトリウムランプの販売が減少
Photonics Solution	<ul style="list-style-type: none"> 光応用の拡大、エネルギー効率向上等により堅調に推移 	<ul style="list-style-type: none"> メディカルヘルスケアや産業用センサー市場向けのデバイス及びモジュールの販売が増加 OAI印刷及びキユア用途のモジュール販売が増加

Copyright © 2023 Usio Inc. All Rights Reserved 18

Industrial Processでは、記載の市況環境前提のもと、ICパッケージ基板向け投影露光及びダイレクトイメージング露光装置は、足元で投資先延ばしの傾向があり、販売は前期比で微増。

また、EUVはTCO低減要求の課題が継続し、本体の売上は現時点では見込まずメンテナンスのみの収入を予定しています。

Visual Imagingは、デジタルシネマプロジェクターの部材問題の緩和により、置き換え需要を取り込むことで販売の増加を見込んでいます。一般映像関連機器は、イベントやテーマパークなどの需要が堅調であり、またシネマ用ランプは、中国市場の回復もあり、いずれも堅調に推移する見込みです。

一方で、固体光源化の影響や需要減により、データプロジェクター用ランプが大幅に減少する見込みです。

続いて、スライド19をご覧ください。

EBITDA増減分析（前年度比）

USHIO



Copyright © 2023 Ushio Inc. All Rights Reserved 19

今、ご説明した通り、EBITDAで26億円減益を見込んでいますが、事業面では主にVisual Imaging事業で伸長させる一方で、中計の達成及び将来の事業拡大のための人材及びR&Dの戦略投資を増やしていくことを計画しています。

それでは、最後に株主還元についてご説明させていただきます。
スライド20をご覧ください。

1株当たり
期末配当額

【配当方針】 安定的な利益還元



2022年度は50円/年を予定
2023年度は50円/年を継続

自社株買い

【自己株式取得の方針】

機動的に実施

なお、保有する自己株式は、発行済株式総数の5%を上限とし、
発行済株式総数の5%を上回る部分については毎年消却を実施

単位：億円



取得期間：2023年5月29日～2024年5月10日

買付予定金額：300億円（上限）

買付予定株数：2,000万株（上限）

Copyright © 2023 Usio Inc. All Rights Reserved 20

詳しくは、中計のパートでご説明しますが、次期以降も継続して安定配当を目指してまいります。

また、中計1年目として、上限300億円、2,000万株の大規模な自社株買いを実施いたします。

詳しくは、5月11日付けのリリース及びこの後の中計にてご説明いたします。

私からのご説明は以上となります。

- I. 2022年度 業績概要
- II. 2023年度 通期業績予想
- III. 参考資料

USHIO

次世代半導体量産用EUV光源
開発/生産/販売



(提供: TNO)



TimPhoenix
PHOTONIX



光源販売
メンテナンス

マスク検査装置メーカー
研究開発機関



半導体デバイスメーカー等

EUVリソグラフィの技術開発進展による次世代半導体の量産化ニーズ



検査、開発用光源のニーズ増大
ウシオのEUV光源が貢献



マスク検査用EUV光源需要増加
メンテナンス機会の増加

ウシオのEUV光源開発の歴史

- 2000年 EUV光源開発開始
- 2001年 EUVA*設立、参画
- 2013年 リソグラフィ用途から撤退
- 2016年 オランダ研究機関TNOへ EUV光源納入
- 2018年 検査用(評価用)初号機納入
- 2019年 量産ライン用初号機納入、検収

*極端紫外線露光システム開発機構

■ウシオの強み

半導体業界での長いビジネス経験
+
長年積み重ねたEUV技術
(コンパクト/高輝度/高出力)

USHIO

最先端ICパッケージ基板向け
分割投影露光装置 (UX-5)
製造、販売

■世界シェア：90%*

*最先端ICパッケージ基板市場
(ステップ/露光機市場)



最先端・次世代パッケージ
需要拡大

装置
販売

パッケージ基板
メーカー

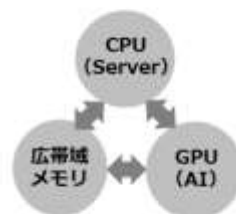
チップ実装
サーバー搭載

IoT進展に伴う大容量かつ高速データ処理用
データセンター向けサーバーの需要増加

データセンター市場：年率20%以上成長（目次調べ）
⇒ 次世代パッケージ基板の採用拡大

■ウシオの強み

1. 大面積一括投影露光
→ 高生産性、低CoO
2. マスクワーク非接触
→ 歩留まり向上
3. 広い焦点深度
→ プロセスマージン・基板反り対応
4. 高い解像力・重ね合わせ精度
→ 配線ピッチ微細化、プロセスマージン





**ダイレクトイメージング
露光装置**
開発・製造・販売

- 微細化対応
- 高生産性



アプリケーションの革新に対応した
プリント配線板需要の増加



**プリント配線板
パッケージ基板
メーカー**

- 高密度化
- 多層化

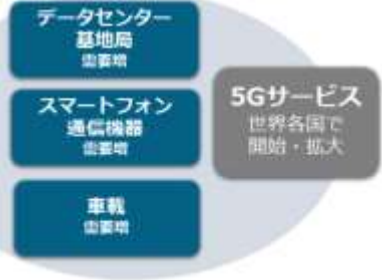
■ウシオの強み

高解像力(ハイエンド)
世界最速の高生産性(ミドルエンド)
+
顧客本位の保守サポート能力



消費電力対応
小型化対応

5G導入による
各種アプリケーションの革新と需要の増加

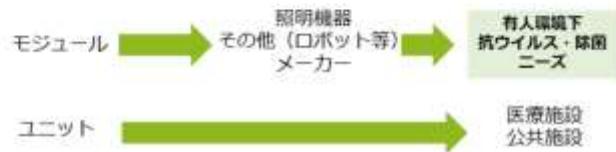


■ 最先端半導体のFOパッケージ、有機パッケージ基板（先端BGA）などに向けた直描式露光装置を開発

リリース全文（2021年7月12日発表）：
<https://www.ushio.co.jp/news/1002/2021-2021/200818.html>



抗ウイルス・除菌用紫外線技術「Care222®」



目指す姿：感染症の無い世界

有人環境下での抗ウイルス・除菌を行いたいというニーズ (安全・安心の提供)

■ウシオの強み

- ・紫外線除菌における独占ライセンス保有 (コロンビア大学)
- ・空間形態に合わせた最適な照射プロセスの蓄積
- ・液晶・半導体業界で培った高品質のエキシマランプ・モジュール製造技術

取り組み	
STEP0	<ul style="list-style-type: none"> ・生産体制確立・製品展開 協業開発、ニーズに合わせたラインナップ拡充 ・認知度・ブランド価値向上 展示会・広告出稿、ブランドサイト、販売パートナーとの協業 ・効果のエビデンス拡充・紫外線に対する理解浸透 学会発表・臨床研究の推進継続 ACGIH*改訂を機に、IEC規格*の改訂及び各国の規格緩和の促進
STEP1	<ul style="list-style-type: none"> ・親和性の高い空間インフラ ⇒ MaaS市場/医療現場へ

*ACGIH：労働者の作業環境基準として製品等の許容濃度 (TLV) 等のガイドラインを示す、アメリカ合衆国産業衛生専門家会議

*IEC規格：国際電気標準会議 (International Electrotechnical Commission ; IEC)

四半期推移《損益》

USHIO

(億円)	2021年度				2022年度				前年同期比		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	増減額	増減率	
売上高	349	366	381	391	397	482	404	466	+75	+19.3%	
営業利益	25	39	42	22	44	56	34	23	+0	+3.2%	
営業利益率	7.4%	10.9%	11.1%	5.8%	11.3%	11.7%	8.5%	5.0%	▲0.8P	-	
経常利益	33	43	48	26	62	73	43	21	▲5	▲20.0%	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	33	31	36	24	38	56	25	16	▲7	▲33.0%	
EPS (円)	28.02	25.94	30.52	20.06	32.18	47.87	21.80	13.78	▲6.28	▲31.3%	
為替レート (円)	USD	110	110	113	115	126	137	144	133	+18	-
	EUR	132	130	130	129	137	140	144	143	+13	-

四半期推移《セグメント別損益》

USHIO

		2021年度				2022年度				前年同期比	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	増減額	増減率
光源	売上高	136	143	152	145	160	164	150	142	▲3	▲2.3%
	営業利益	19	25	24	12	31	20	21	17	+4	+37.5%
	営業利益率	14.3%	17.8%	16.3%	8.8%	19.4%	12.2%	14.1%	12.4%	+3.6P	-
光学装置	売上高	124	120	108	130	115	186	113	161	+30	+23.6%
	営業利益	10	13	10	10	10	34	17	8	▲2	▲20.2%
	営業利益率	8.7%	11.3%	10.1%	8.4%	9.4%	18.7%	15.1%	5.4%	▲3.0P	-
映像装置	売上高	82	94	111	104	113	119	129	150	+46	+44.2%
	営業利益	▲4	0	5	▲1	2	0	▲5	▲4	▲2	▲169.2%
	営業利益率	▲5.8%	0.3%	4.9%	▲1.4%	2.2%	0.2%	▲3.9%	▲2.7%	▲1.2P	-
その他	売上高	6	8	9	10	7	11	10	11	+1	+19.0%
	営業利益	▲0	0	0	0	0	0	0	0	+0	+170.4%
	営業利益率	▲0.2%	2.2%	7.8%	2.0%	1.5%	6.2%	5.6%	4.5%	+2.5P	-
連結合計	売上高	349	366	381	391	397	482	404	466	+75	+19.3%
	営業利益	25	39	42	22	44	56	34	23	+0	+3.2%
	営業利益率	7.4%	10.9%	11.1%	5.8%	11.3%	11.7%	8.5%	5.0%	▲0.8P	-

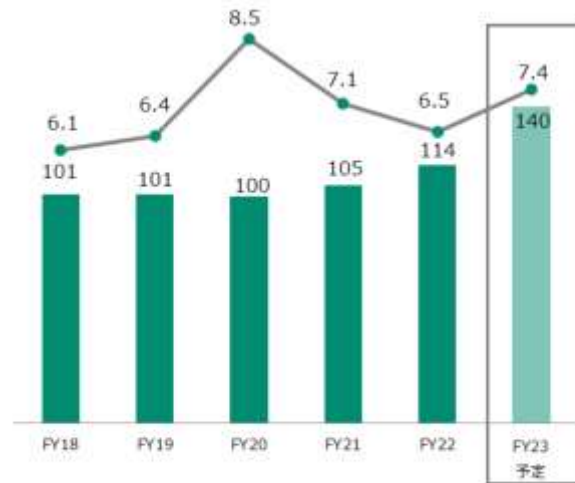
地域別売上高比率

USHIO

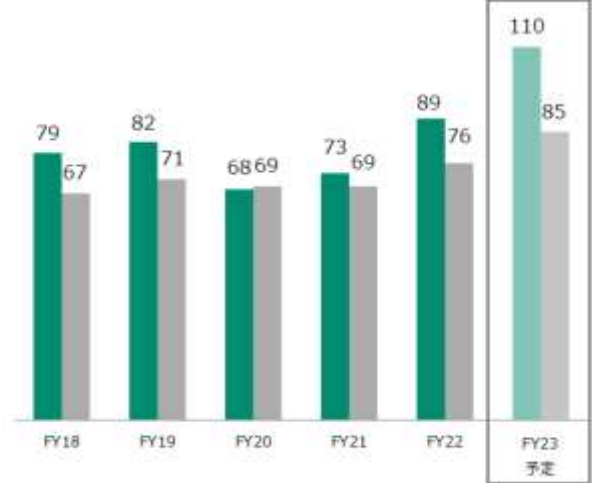


研究開発費／設備投資額・減価償却費

■ 研究開発費 (億円)
 — 売上高研究開発費率(%)



■ 設備投資額 (億円)
 ■ 減価償却費 (億円)



貸借対照表

USHIO



回転月数 (ヶ月)	2022/3	2023/3
売上債権	2.8	2.5
たな卸資産	5.0	5.1

自己資本比率 (%)	2022/3	2023/3
	73.2	75.4

Copyright © 2023 Ushio Inc. All Rights Reserved 30

キャッシュフロー推移

単位：億円



- 当社オフィシャルWebサイト「投資家情報」をリニューアルしました。よりアクセスしやすく、ウシオの現在～未来を知っていただけるような構成に整理しました。
- 法定開示や適時開示、その他IR情報等、ウシオのIRニュースを開示後適時にメールでお届けできるように**IRメール配信サービス**を導入しました。IRサイトからご登録いただきますようお願いいたします。

Renewal Point

01

個人投資家の皆さま向けコーナーを新設

シンプルでわかりやすさを追求した構成にすることで、利便性の向上を図りました。



Renewal Point

02

コンテンツの新設

当社のビジネスをより身近に感じていただけるコンテンツを拡充しました。



Renewal Point

03

IRメール配信登録機能を追加

個人投資家の皆さまにもIRニュースをいち早くお知らせできるよう機能を追加しました。



ここをクリック

IRメール配信登録は
こちらから



AI	Artificial Intelligence	人工知能
APMI	Actinic Patterned Mask Defect Inspection	EUV光を使ったマスク欠陥検査装置
BGA	Ball Grid Array	半田ボールを格子状に並べた電極形状をもったパッケージ基板
CoO	Cost of Ownership	導入コストやメンテナンスコストなどを含めた、使用者（オーナー）が負担するコスト
CPU	Central Processing Unit	中央演算処理装置
DCP	Digital Cinema Projector	デジタル・シネマ・プロジェクター
DI	Direct Imaging	マスクを使わず、直接描画する露光方式
EUV	Extreme Ultraviolet Radiation	極端紫外放射（極紫外放射）
FPD	Flat Panel Display	フラット・パネル・ディスプレイ
GPU	Graphic Processing Unit	画像を表示するために必要な計算を行う半導体装置
IoT	Internet of Things	モノがインターネット経由で通信すること
OA	Office Automation	オフィス内の事務作業の自動化や効率化を図ること
TNO	The Netherlands Organization of Applied Scientific Research	オランダ応用科学研究機構
UV	Ultraviolet	紫外線
5G	5 th Generation	第5世代移動通信システム

(旧) 事業セグメントと主な製品

USHIO

事業セグメント	主要事業・製品	製品例
光源事業	放電ランプ ハロゲンランプ 固体光源	 UVランプ  シネマ用ランプ  データプロジェクター用ランプ  OA用ランプ  固体光源 (LD/LED)  Care222 [®] 関連製品
光学装置事業	投影露光装置 ダイレクトイメージング露光装置 EUVマスク検査用EUV光源 保守サービス	 投影露光装置  ダイレクトイメージング露光装置  EUVマスク検査用EUV光源  光配向装置  液晶貼り合わせ用紫外線照射装置
映像装置事業	デジタルシネマプロジェクター 一般映像用プロジェクター ディスプレイ 保守サービス	 デジタルシネマプロジェクター  一般映像用プロジェクター  ディスプレイLEDフォール  映像周辺機器

(新) 事業セグメントと主な製品

USHIO

事業セグメント	主要事業・製品	製品例
Industrial Process	<p>光源： UVランプ、OA用ランプ、光学機器用ランプ他</p> <p>装置： UV装置、キュア装置、EUVマスク検査用光源、保守メンテナンスサービス他</p>	 <p>UVランプ OA用ランプ 投影露光装置 ダイレクトイメージング露光装置 EUVマスク検査用EUV光源</p>
Visual Imaging	<p>光源： シネマ用ランプ、データプロジェクター用ランプ他</p> <p>装置： デジタルシネマプロジェクター、一般映像向けプロジェクター、映像関連機器、保守メンテナンスサービス他</p>	 <p>シネマ用ランプ データプロジェクター用ランプ デジタルシネマプロジェクター 一般映像用プロジェクター ディスプレイLEDウォール 映像周辺機器</p>
Life Science	<p>光源：「Care222[®]」搭載製品他</p> <p>装置：紫外線治療機器他</p>	 <p>抗ウイルス・除菌技術「Care222[®]」搭載製品 紫外線治療機器「セラビームシリーズ」</p>
Photonics Solution	<p>光源：固体光源</p>	 <p>固体光源 (LD/LED) レーザーモジュール</p>

<本資料に関するお問い合わせ先>
ウシオ電機(株)
コーポレートコミュニケーション部 IR課
(03) 5657-1007
ir@ushio.co.jp
<http://www.ushio.co.jp/jp/>